【那智黒硯製作】

山口貞次郎

（号　光峯）

【現 住 所】那智勝浦町
【生　　年】明治31年

職　　歴

家業は製材業であったが、那智黒への興味と、持ち前の手先の器用さにより、24～25才の頃から那智黒硯の製作を始め、昭和12年からは現在地において、製作を続けておられる。

業績の概要

原石の自然な姿を生かした那智黒硯は、ち密な石質と適当な硬度により愛硯家に珍重されている。

硯の製作には、石採りから、形づくり、裏ならし、荒彫り、彫り、磨きまでいくつもの工程があり、多くの種類の、のみや砥石を使い分ける。

墨とのなじみをよくするため、特に「なぐら」と呼ばれる仕上げ砥石による磨きには神経を使い、製品によっては丸二日かけることもあるという。

氏は、これらの技術を後継者に指導されるとともに、今なお、のみをもち、なぐらをかけ続けておられる。

なお、製品は県優良みやげ品に推せんされている。

また、昭和52年の第28回全国植樹祭の析、行幸啓特産展に出品し、御買上げされている。